



光桂寺だより

第228号

真宗大谷派 光 桂 寺 〒838-0133 福岡県小郡市八坂201
TEL 0942-72-2432 FAX 0942-72-2486 印刷 片山印刷(有)

お盆を迎える



今年も暑い夏がやってきました。八月にはお盆を迎えます。

お盆の起源については諸説あるようですが、仏教としては「盂蘭盆経」が基だと言われています。お釈迦様のお弟子の目連さんのお母さんが餓鬼道に落ちて苦しんでいることが分かり、お釈迦様に相談したところ、僧侶たちの安居(雨季の修行)の最終日である七月十五日に様々な食べ物をお母さんに供養するように教えられ実行したところ、お母さんは餓鬼道の苦しみから救われたという話が説かれています。古いインドの言葉で「盂蘭盆」は倒懸(逆さ吊り)の意味で、目連のお母さんが受けた餓鬼道の苦しみを指しており、この「盂蘭盆」が略されて「お盆」になったと言われています。

現在のお盆の形は、日本古来の祖先信仰とも深く結びついたものとなっていますが、真宗では、いわゆる「先祖のための供養」を行いませんので、一般的なお盆の習慣とは異なるところが多いようです。

(前略) 祖先を大事にすることはとても大切なことですが、しかし一方で私たちは、祖先を敬うことの見返りに除災招福を望み、自分の欲望を満足させるための利己的なあり方をしていともいえるのです。では、祖先を大事にするとはどのようなことでしょうか。

私たち真宗門徒は亡き人を「諸仏」といただきます。「諸仏」とは、私たちを人間としての真実の生き方へ導いてくださる仏さまです。つまり、私たちが亡き人を崇拝するのではなく、亡き人の方から私たちに「真実に目覚め、真実に生きよ」と呼びかけてくださっているのです。私たちが亡き人をそのような「諸仏」といただいでこそ、亡き人を大事にすることになるのです。

私たち真宗門徒にとって「お盆」とは、亡き人から案じられている我が身であったことに気づき、あらためて、人間として賜ったいのちや生きる意味を問う「聞法の機縁」なのです。

(東本願寺発行「お盆」より)

お盆も、亡き人から案じられているわが身が仏法に出遇っていく機会の一つです。真宗では迎え火や送り火、迎え提灯などを行わないのは、生きている人間のように先祖が帰ってくるわけではなく、「この世に帰ってきて衆生(私たち)を教化してくださる」という諸仏の還相回向の「はたらき」に出遇うことが大切だと教えられているのだと思います。

永代経志(ぎ)寄付者(ぎ)芳名

誠にありがとうございます。

五月

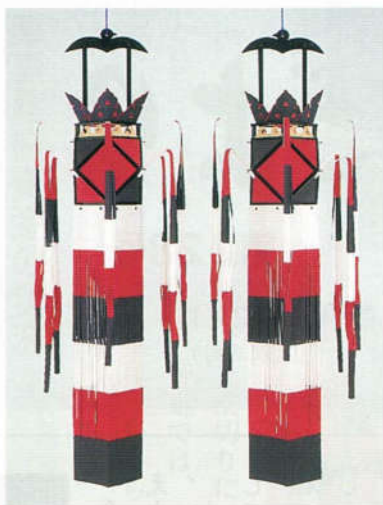
様 様

お盆の荘厳(お内仏のお飾り)

日常の仏事の延長線上で勤めるのが真宗門徒のお盆です。他宗派の様に特別なものは必要ありません。

- ・お内仏のほこりを払い、仏具を磨き、打敷をかけます。打敷は夏物(白系のもの)があればなお良いです。
 - ・お花は、マキや松、ヒノキをシンにして、季節の花(生花)を添えます。
 - ・真宗では盆提灯ではなく、切籠燈籠を一對掛けるのが正式です。
 - ・お内仏内部には、小餅やお団子を供えま
- す。
- ・お水(浄水)は、華瓶けびょうでお供えし、しきみなどの青葉を差します。

「門徒ものしり手帳」の七頁などもご覧ください。



大谷派の切籠

初盆について

亡くなられて初めて迎えるお盆を「初盆はつぼん」といいます。一説には四十九日が明けてから初めて迎えるお盆を「初盆」とする場合もあるようですが、光桂寺では四十九日の前であっても「初盆」を勤めるようお勧めしております。

今年も多くの自宅が初盆を迎えます。初盆のお参りは短い期間に集中するため、通常のご法事とは異なり、対象の方に事前にご希望の日にちを伺い、希望が出そろったところで回る順番を決め、お参りするおおよその時間をお知らせする(七月中の予定)、という方法で調整させて頂いております。時間帯について、ご希望に添えないことがあるのは心苦しいところではありますが、ご容赦頂ければと思います。

初盆を迎える方々



- 福岡
- 春日
- 筑紫野
- 馬渡
- 八坂
- 十楽
- 久留米
- 平方
- 鳥栖
- 十楽
- 横隈

- 城
- 馬渡
- 八坂
- 馬渡
- 末次
- 京手
- 宝城団地
- 京手
- 馬渡
- 小郡
- 城
- 鳥栖
- 馬渡
- 筑紫野
- 福岡
- 太宰府
- 京手
- 田主丸
- 馬渡
- 宝城団地
- 京手
- 十楽
- 久留米
- 小郡
- 大刀洗
- 小郡
- 光行
- 宝城団地
- 鳥栖
- 小郡
- 久留米
- 平方

お盆関連行事

○八月十二日(土) 九時より
盆供養・全戦没者追悼法要
於 光桂寺本堂

この法要には味坂校区の遺族会の方々も参列されます。お勤めのみです。

○八月十九日(土) 夕方

盆踊り
於 光桂寺境内(保育園園庭)

今年はお盆の後の土曜日に盆踊りを開催します。踊りの櫓や、屋台(出店)も出る予定です。



お盆のお参りについて

お盆は、地元以外のお内仏を中心に、毎年六十軒ほどお参りに伺っています。地元以外の全てのお宅に伺っているわけではありませんが、基本的にお盆の三日間の内にお参りするため、副住職や私の子どもたちも含め最大五名で手分けしてお参りしています。

経緯や理由ははつきりしませんが、地元の方は、お盆のうちに納骨堂へお参りされることや、十一月〜十二月にかけて「おとりこし」等でお参りすることから、お盆は地元以外へお参りすることになっているのかなと考えていま

す。ご希望があれば、地元・地元以外に関わらずお参りしますので、ご相談ください。その場合、調整の関係上、八月五日までにご連絡をお願いいたします。ただし、初盆と同じく、お時間の指定はできません。また、今お参りしているお宅で、今年や今後、お参りを辞退される場合もお知らせください。

庫裏建設の進捗

四月末発行の光桂寺だよりにて、庫裏の解体が終わったところまで報告しましたが、四半ばから後半にかけて、クスノキの伐採を行いました。



伐採されたクスノキ



切り株テーブル

新庫裏の基礎にかなりそうな部分は伐根されましたが、切り株をテーブル状にして残しました。業者の方がイスも作ってくれました。外構工事が始まるまでの間、原っぱで遊ぶ保育園児

たちの休憩所になっていました。

五月から六月にかけては敷地東側の塀と側溝の工事が行われました。東南角の方は隣接地と段差があるため、基礎工事からブロックを積み上げ、丁寧に工事が行われました。



東側の外構



北側の外構



整理された建設予定地

起工式を挙行しました

七月二日(日)、新しい庫裏の玄関・接待所となる場所にご本尊を拝し、起工式を実施しました。

前日夜まで続いた強い雨が奇跡的に上がり、大変蒸し暑い中ではありましたが、塔本研作建築士、株式会社永利建設の関係者をお招きし、光桂寺総代・門徒会総代、婦人会役員、庫裏建設委員会の皆さんの列席の下、伽陀・阿弥陀経をお勤めし、列席者の皆さまにも焼香を頂きました。



起工式の様子



起工式のお勤め

今後、七月下旬からの杭打ちを皮切りに、本格的な建設工事が始まります。予定では、十月上旬上棟を迎え、建物の完成は来年三月くらいになる見込みです。

◎庫裏建設資金の状況

前々号・前号にて追加のご懇志について厚か

ましくお願いしておりましたが、既に完納された方から追加で懇志金をお納め頂いたようで、大変ありがとうございます。また、新規加入の方からもご協力頂き、分割の方からも引続き納入を頂いているため、建設委員会会計の手持ち資金が増加しており、筑邦銀行からの借入れを減額できる可能性が出てきました。状況を見ながら時期、金額の再検討を行っているところで。引き続き、懇志金についてご協力を切に願っています。

今年も奉仕団で上山します

今年の上山奉仕団は以下の日程で開催予定です。総代さんを中心に、一緒に上山くださる方を募集します。今年は東本願寺の同朋会館に一日泊二日の予定です。ご希望の方やお問い合わせは光桂寺までお願いします。

- 日程 十一月十日(金)～十一日(土)
- 定員 十名(引率含む)
- 参加費 未定(一部補助あり)

ご不便をおかけします

庫裏建設のため、仮接待所、仮寺務所、住居時には本堂など、あちこちに分かれた場所です。仕事や生活を行っているため、電話を取るのが遅れたり、代わる際にお待たせしたりする場合がございます。本堂以外のどの建物にいても電話を受けられるようにしておりますが、

外にいる場合など、時にご不便をおかけするかもしれませんが、ご理解頂ければと思います。

謹んでお悔やみ申し上げます

四月二十二日	宝城団地
四月二十九日	京手
四月三十日	十楽
五月 九日	久留米
五月二十七日	小郡
六月十一日	大刀洗
六月十三日	小郡
七月 一日	光行
七月 六日	宝城団地
七月 八日	鳥栖
七月 十日	小郡
七月十四日	久留米
七月十五日	平方